

愛知県カラーユニバーサルデザイン普及ワークショップ
アンケート集計結果報告

※このアンケートは、ワークショップの主催者である愛知県健康福祉部障害福祉課によって作成・実施・集計された。主催者の許可を得て、ここにアンケート用紙およびアンケート集計結果を掲載する。

愛知県カラーユニバーサルデザイン普及ワークショップ アンケート集計

1 参加者の属性

(1)勤務する学校区分

区分	人数	割合
①小学校	25	53.2%
②中学校	10	21.3%
③高等学校	11	23.4%
④特別支援学校	1	2.1%
合計	47	100.0%

(2)教員区分

区分	人数	割合
①一般教員	9	19.1%
②養護教員	34	72.3%
③その他(校長)	3	6.4%
③その他(事務職員)	1	2.1%
合計	47	100.0%

2 参加の経緯(複数回答可)

区分	人数	割合
①色覚(色の見え方)や色覚異常について関心があったため。	35	74.5%
②勤務している学校内に色弱(又は色弱の可能性のある)児童・生徒がいるため。	32	68.1%
③自分又は身近な親族等に色弱(又は色弱の可能性のある)の方がいるため。	7	14.9%
④その他(職場での対応に活かすことを増やしたかったため)	1	2.1%
④その他(どのような配慮が必要になるのか知りたかったため)	1	2.1%
④その他(どういった物を購入していくと良いか知りたかった)	1	2.1%
④その他(美術の教員として知っておきたかった)	1	2.1%
合計	47	100.0%

3 企画内容について

★第1部 講演「色覚に関する講演」

(1)内容について

区分	人数	割合
①十分に理解できた	18	38.3%
②大体理解できた	27	57.4%
③普通	2	4.3%
④あまり理解できなかった	0	0.0%
⑤理解できなかった	0	0.0%
合計	47	100.0%

(2)時間について

区分	人数	割合
①長かった	0	0.0%
②少し長かった	1	2.1%
③ちょうどよかった	34	72.3%
④少し短かった	10	21.3%
⑤短かった	2	4.3%
合計	47	100.0%

★第2部 ワークショップ

(1)内容について

区分	人数	割合
①十分に理解できた	22	47.8%
②大体理解できた	23	50.0%
③普通	1	2.2%
④あまり理解できなかった	0	0.0%
⑤理解できなかった	0	0.0%
合計	46	100.0%

(2)時間について

区分	人数	割合
①長かった	0	0.0%
②少し長かった	2	4.3%
③ちょうどよかった	35	74.5%
④少し短かった	8	17.0%
⑤短かった	1	2.1%
合計	46	100.0%

4 自由記入欄<順不同>

- ・今は色覚検査を実施しないので、色覚弱者の存在を把握することが難しいですが、色覚弱者の存在を意識した授業づくり、学校づくりをしていきたいと思いました。特にビブス等の色については即対応したいと思いました。とても勉強 になりました。
- ・美術の教員なのですが、教科の特性上どうすれば良いのか解決策が見つからないことが沢山ありました。今回、偶然参加できたのですが、図工や美術科の教員向けにもこのような機会があると大変需要があると思います。
- ・色に頼らない方法には色々ある。色弱当事者の方がどのようにみえるかがよく分かった。
- ・日常生活の中で色覚に配慮をして指導を行いたいと思っていましたが、自分が考えている以上に配慮すべき事柄があり、反省しています。また、色の名前に頼った指導をしてきたことにも反省しています。明日、早速職員に伝えたいと思いました。
- ・実際にどんな風に見えるのか分かって勉強になりました。意外な色同士が同じような色に見えることがあるということがよく分かりました。今後、職員にも伝えることができれば良いなと思いました。
- ・ビブスの色について考えたこともなかったが、バリエントールをかけて見ると見やすさが全然違い、衝撃的でした。色覚特性といっても子どもによって見え方が異なると思うが、「色のシミュレーター」を使って、使う色を今後考えていきたいです。
- ・当事者の方の意見を聞くことができたのは本当に良かったです。配慮のある社会が当たり前になるよう、わたしたち学校職員も努力していかなくてはならないと思いました。学校に帰ったら先生方に伝達します。
- ・バリエントールをはめたり、実際にP型の方とお話したりして、初めて理解できたことがあった。色弱者を把握して対応するのではなく、いる前提で対応するよう言われている。実際に何をすべきか、このワークショップを通じて知ったので広めていきたい。
- ・黒板の配慮については必要性を分かっていたのですが、ビブスや体育館のラインなど、ノーマークだったので、こんな風に見えるのかと驚きました。
- ・バリエントールをかけることで本当に見づらいことがよく分かりました。1つの価格が高価なので、学校での購入は難しいと思いますが、先生方にも実際にかけてもらうことで理解が深まりやすいと感じました。レンタルができればいいなと思いました。
- ・色覚特性の見え方を体験できるメガネやアプリがあることを知ることができて良かった。できることからCUDに取り組みたいと思う。
- ・色覚特性をもつ子どもたちが見えている世界感がよく分かりました。学校に戻ったら色のシミュレーターのアプリを通して見える様子を校内の先生方にも見てもらい、色覚特性の子どもへの対応に活かしてもらおうと思います。
- ・チョークの認識は以前よりありましたが、ビブスや紙の色等、今回のワークショップで気づくことができました。職員に周知したいと思います。

・大切なことをたくさん話してくださったので、しっかりメモをとって見直したいと思ったのですが、画面の切り替わりが早く、十分に記録が取れませんでした。パワーポイントのメモ印刷を配布して下さるか、レジュメを配布してほしいと思いました。とはいえ、講演内容はとても勉強になりました。

・色の見え方についてすごくよく分かりました。言葉よりも実際を知ることで、他の方への説明方法について、改めて考えて職員へ伝えていきたいです。

・実際に板書がどのように見えるか等の体験ができてよかった。ビブスなどは広い面で多少見やすいかと思っていたのですが、全く違った。当事者の方に、普段の生活(車の運転や信号の見え方など)も伺うことができてよかった。就職等の進路の話も聞けると良かった。

・色覚に関してもう少し詳しく知りたかった。資料など沢山いただけたので、職場でも周知と活用をしていきたい。

・シミュレーションやチョークなど、実際に見て触れることができ、ありがたかったです。